シンポジウム要旨

ある地域集団やその文化の形成過程には、文化的側面のみならず、その集団の系統性や集団をとりまく気候環境など多くの因子が関係している。日本列島北部の先住民族であるアイヌ民族の形成過程については、これまでもいくつも仮説が提示されてきた。しかし、ある民族集団の形成過程の解明のためには、一地域史としての視点のみではなく、グローバルなスケールからの考察が不可欠である。

われわれの研究グループは、2012 年度からは科研費基盤研究の、また2013 年度からは日本学術振興会　研究拠点形成事業（先端拠点型）の支援を受けてアイヌ民族文化の形成過程を、北方圏の人類生態史の視座から多角的に研究する取り組みをスタートさせた。本シンポジウムでは、人類学、遺伝学、古環境学、考古学の各領域から、特に北海道礼文島浜中遺跡群の調査成果を基礎としつつ、北方由来の文化として指摘されながらも、具体的な集団起源や文化系統、その文化的拡散の背景について、いまだに不明な点が多いオホーツク文化の後のアイヌ民族文化へ与えた影響について、アイヌ民族文化自体の地域的多様性の起源について議論します。

本研究は以下の研究助成を受けて実施されています。

日本学術振興会　研究拠点形成事業（先端拠点型）2013-2017
日本学術振興会　基盤研究(A) 2012-2015

JSPS Core-to-Core Program

北方圏における人類生態史総合研究拠点

事務局：北海道大学アイヌ・先住民研究センター内考古学研究室

プロジェクト HP:

2013

シンポジウム Symposium

アイヌ民族文化形成過程の解明：北からの視点

Seeking of the Formation Process of Ainu and their cultural tradition: from the North

第６７回日本人類学会
国立科学博物館（つくば市）11 月１日～４日

報告者

セッションオーガナイザー：
深瀬均（北海道大学大学院医学研究科）
加藤博文（北海道大学アイヌ・先住民研究センター）

報告者

加藤 博文（北海道大学アイヌ・先住民研究センター）
岩波連（北海道大学理学研究院）
石田 肇（琉球大学医学研究科）
安達 登（山梨大学医学研究科）
佐藤孝雄（慶応大学文学部）
高橋鵬成（慶応大学文学部）
大西凜（慶応大学文学部
服部太一（慶応大学文学部）
澤田純明（聖マリアンナ医科大学医学部）
米田 穣（東京大学総合研究博物館）
内藤裕一（チュービンゲ大学地球科学）
米延仁志（鳴門教育大学学校教育学部）
山田和芳（早稲田大学人間科学）
篠塚良嗣（北海道大学地球環境研究科）
入野智久（北海道大学地球環境研究科）
山本正伸（北海道大学地球環境研究科）
原口強（大阪市立大学理学部）
瀬戸浩二（島根大学汽水センター）
岡田真弓（北海道大学アイヌ・先住民研究センター）

JSPS日本学術振興会 Japan Society for the Promotion of Science

北海道大学 HOKKAIDO UNIVERSITY

プログラム

1. **アイヌ民族文化形成過程の解明：北からの視点**
   加藤 博文
2. **浜中2 遺跡における日加共同調査の成果と課題**
   岩波連
3. **オホーツク文化人骨の生物考古学**
   石田 肇
4. **ミトコンドリアDNA からみたアイヌの成立**
   安達 登
5. **礼文島の動物考古学**
   佐藤孝雄、高橋鵬成、大西凜、服部太一、澤田純明
6. **古人骨・動物骨の炭素・窒素同位体からみたオホーツク文化**
   米田 穣、内藤裕一、石田 肇、加藤博文
7. **湖沼堆積物による東北アジアの古環境復元**
   米延仁志、山田和芳、篠塚良嗣、入野智久、山本正伸、原口強、瀬戸浩二
8. **2013年の礼文島における地域に根差した考古学の取り組みに関する報告**
   岡田真弓

11 月 3 日午前に開催されたシンポジウムは、会場に立ち見がでる状態で盛況の内に終了した。終了後、多くの参加者の方から好評を得ることができた。